

第1回

南丹市総合振興計画 \ 職員研修 /

よこのつながりを 大事にする研修



PROGRAM

開会

研修の趣旨・流れの説明

自己紹介

講演 行政職員・市民活動について

ワーク1 地域といきる理想の公務員

ワーク2 職員研修プログラムを考える

発表・講評

閉会

日時 2017.02.16(木) 14:00~16:30 参加人数 22名
場所 南丹市園部公民館 3F研修室

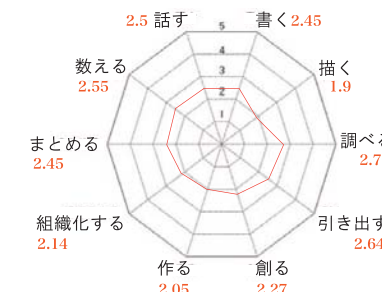
研修の趣旨

現在、第2次総合振興計画を策定に向けて作業を進めています。策定に向けて、4つの「計画策定の基本的視点」を定めました。中でも「市民の声を生かした市民に分かりやすい計画づくり」や「各個別計画との連携を強化し、実効性を高めた計画づくり」を実現するために、この研修では以下の2点の目的を設定しています。

- ☞ 市民参加で施策を進めていくためにノウハウを学ぶ
- ☞ 各課の連携を強化し、施策の実効力や効果を高める

1 自己紹介：市民との対話力自己診断

研修を受けるにあたり、意気込みや市民とのコミュニケーションに関する能力評価をグループに分かれて共有しました。課を越えて話し合う機会が少ない中、お互いを知り合うことは貴重な時間となりました。市民とのコミュニケーションに関する能力評価については、「引き出す」や「調べる」などの事前調査に関する部分が高く、「創る」や「描く」などのクリエイティブに関する部分が低い結果となりました。



2 講演：行政職員と市民活動について 講師：山崎亮 (studio-L)

住民参加の時代

『住民参加』はすべての課に関わることなのか」という疑問があります。しかし、調べてみると行政もマーケティング分野も『住民参加』なくしては、進めていけない時代に入っているように感じます。

『住民参加』という時代には、行政職員自身の仕事も変わってくるのではないかと感じます。都市計画も芸術も教育も、他の分野も「参加型」に変わってきています。これまでの進め方だと、要望、陳情型が多くなってきてしまっています。そうならない進め方として、地域の人自身が地域のことに取り組んでいく必要があるし、今回行うワークショップのような参加の場が必要だと感じています。参加の場づくりについて、この研修で学びを深めてもらいたいと思います。

事例：長久手

長久手市は5万人を超える今でも人口が増えている珍しい自治体です。市長は先をよく見据えていて、人口が増えている、減っていく時代のことを考えておかないといけない、と言っています。そのため、市民参加をしっかりとやっていこうと提唱しています。

その時、studio-Lが入り、若手職員研修を実施してきました。初めに行ったフォーラムで、行政が地域の調整役として地域に入っていくことを宣言しました。

地域と行政が交流している中で、市民チーム「なでらぼ」が生まれました。このチームが地域の課題を解決し始めました。今では市民が活動するきっかけづくりを「なでらぼ」が担っています。同じ方法が、南丹市でも必要かどうかはこれから皆さんにも考えてもらいたいと思います。

◆参加やコミュニティが(再び)重要になる時代

- ・公園：パークマネジメント、公園の手入れ、住民参加。
- ・都市：都市計画→まちづくり、デザイン→参加型デザイン。
- ・芸術：ソーシャル・エンゲージド・アート、参加型アート。
- ・娯楽：ユーチューブ(動画)、初音ミク(音楽)、タンブラー(画像)。
- ・環境：公害→自然破壊→環境問題。
- ・教育：参加型授業(AL)、ラーニングピラミッド、生涯学習。
- ・情報：リナックス、ウェブ2.0、ブログ、フェイスブック、ウィキペディア。
- ・市場：関係性マーケティング、空想生活、AKB48、メルカリ。
- ・福祉：家庭福祉→施設福祉→地域福祉、コミュニティワーク。
- ・医療：患者参加型医療、地域包括ケア、統合ケアと地域ケア。
- ・薬事：行きつけ薬局、コミュニティファーマシー。

若手職員交流会



studio-Lとは



studio-Lは2005年に立ち上げた地域づくりのお手伝いをする事務所。人口減少時代において、施設ばかりつくってもしかなかったらどうだろうということで、今の住民参加を支援する仕事に変化してきました。住民参加で計画や活動をつくっていく取り組みが多く、ワークショップなどを企画して地域の人との対話の場づくりをしています。また、studio-Lが去った後にも地域の人や行政職員がとっぴな事をしていくことが大切だと思っているので、studio-Lのノウハウを地域の中に残していきたいと思っています。その為、今回の総合計画策定事業も計画をつくることは、地域との対話の仕方を行政職員自身に身に付けてもらいたいと思っています。

3 ワーク 地域といきる理想の公務員 × 職員研修プログラムを考える

地域との協働を行う上で、南丹市職員として「できていること」「できていないこと」を整理し、これから続く研修プログラムを考えました。

1 グループ

ワーク1 地域といきる理想の公務員

| | | | |
|-------|--|--------|---|
| できている | <ul style="list-style-type: none"> 情報の公開 地元の仕事支援 一緒に考え提案する なんでも相談される⇒市役所につなぐ 連絡体制 住民さんの話(訴え)を聞く 集落内の行事は必ず参加 集落内の女子会を組織化して活動している(対価を求め) | できていない | <ul style="list-style-type: none"> 災害時の地元での活動 平日昼間の活動に参加できない 集落を超えての地域活動に積極的に参加できていない ボランティア 市民と関わる場 行動する 要望に対する回答 |
|-------|--|--------|---|



ワーク2 職員研修プログラムを考える

市民との対話、過疎の町、ボランティア的活動が少ない点 ← 改善したい点

■地域の中で、活動を生み出すことを重視した研修プラン

【講座3回バージョン】

交流会 → チームビルディング講座 → クラウドファンディング講座

【講座6回バージョン】

交流会 → チームビルディング講座 → まち歩き講座・実習・インタビュー講座・実習 → アイデア発想法を学ぶ講座 → クラウドファンディング講座 → 情報発信講座・写真の撮り方講座・実習・笑顔の話し方講座



2 グループ

ワーク1 地域といきる理想の公務員

| | | | |
|-------|--|--------|--|
| できている | <ul style="list-style-type: none"> 長く地域活動 年代を超えて知り合いがいる 地域に知らない人はいない 新しい土地でのつながりづくり/コミュニケーション 女性消防やります 環境整備など集落美化活動 地域の活動に参加できる 消防団の分団主任 道づくりに参加/美化作業に参加/神社の行事に参加 地域の歴史を調べる | できていない | <ul style="list-style-type: none"> 地域の中に入って行けていない つながりのない世代とのコミュニケーション 小学校、保育園の保護者のことをよく知らない 南丹市 自分の住んでいるところはみなしっているが、他は知らない 人のよさを見つけてつなぎ、自律的なコミュニティを作る 地域のよさを発信する |
|-------|--|--------|--|



ワーク2 職員研修プログラムを考える

地域への入り方、他の地域のことを知らない点 ← 改善したい点

■地域との関係性をつくることを重視した研修プラン

【講座3回バージョン】

笑顔の話し方講座 → まち歩き講座・実習 → 交流会

【講座6回バージョン】

交流会・インタビュー講座・実習 → ファシリテーション講座 → 写真の撮り方講座・実習 → まち歩き講座・実習 → 交流会 → 情報発信講座



4 山崎さん講評

みなさんの発表を聞いていると共通する点が見えます。その結果次のような順番がいいのではないかと思います。「お互いを知る→コミュニケーション能力→具体的知識(写真、クラウドファンディング)→これを市民にやってもらうためにやってもらう方法→具体的な企画を考えてみよう→交流会」
コミュニケーションを高めることは、これまで教育課程でも重要視されてこなかった部分です。どう声を発するのか、どう聞いたか、も重要ですが、その前に自分自身を知ること(自己覚知)が重要です。「自己覚知(コアピラーフ)」を知ったうえで、「聴く」、その上で「語る」がある。参加の時代、このコミュニケーションのとり方を高めてもらいたいです。



3 グループ

ワーク1 地域といきる理想の公務員

| | | | |
|-------|--|--------|--|
| できている | <ul style="list-style-type: none"> 市内の新しい魅力を発信 一住民となること 地域の土日のイベントの参加 市民協働という意識 地域のこれまで歴史に対する理解 地域の課題を理解している 市民に対する上から目線がない 京都丹波というブランド意識 市民の質問に対する返答 | できていない | <ul style="list-style-type: none"> 情報発信 ①事業の計画を作るだけで終わっている 情報発信 ②準備に追われて肝心の人集めが遅い 情報発信 ③デザイン力が乏しい 「南丹」という新しい名前のブランド化 地域のことを知らないことが多い |
|-------|--|--------|--|



ワーク2 職員研修プログラムを考える

情報発信が不足、南丹市のブランドが定着しない、知らないことが多い ← 改善したい点

■地域との役割分担を考えることを重視した研修プラン

【講座3回バージョン】

人にすすめたい、教えたい、物、場所、人一つ教えてもらおう

【講座6回バージョン】

市民が参加したいと思えるよう「してほしいこと」「参加すればどんなメリットがあるか」を整理する / スキルを持っている人を参加させ、コーディネートできる力を身につける → インタビュー講座・実習 / 笑顔の話し方講座 / 地域から引き出す → まち歩き講座・実習 → 情報発信講座 / 観光情報をまとめ発信するための講座 → 行政マンが写真やデザインのプロになるより上手な市民を巻き込みたい → 交流会



4 グループ

ワーク1 地域といきる理想の公務員

| | | | |
|-------|---|--------|---|
| できている | <ul style="list-style-type: none"> 地域の要望に対する対応 住民の話をていねいに聞く あいさつ 子どもたちの笑顔をいっぱい見ることができた 地域の奥さん同士のつながりができた 地域の老人も知り合いが多くあった 技術支援 アドバイス 水路等、... | できていない | <ul style="list-style-type: none"> 本のちよきん通帳の取り組みで図書館に活気が出た 他の課から意見を聞く 他の課と連携した事業内容 |
|-------|---|--------|---|



ワーク2 職員研修プログラムを考える

市役所内の情報の連携ができていない ← 改善したい点

■行政の横断的な情報共有を図ることを重視した研修プラン

【講座3回バージョン】

交流会 / 各課の自慢大会(不幸自慢も含む) / 若手職員を中心に各課職務内容・成果・悩みなどをフランクな雰囲気ですべてを誘ってもらい、職務内容の共有と交流を図る → 合宿 → アイデア発想法を学ぶ講座

【講座6回バージョン】

交流会 / 各課の自慢大会(不幸自慢も含む) / 若手職員を中心に各課職務内容・成果・悩みなどをフランクな雰囲気ですべてを誘ってもらい、職務内容の共有と交流を図る → 合宿 → アイデア発想法を学ぶ講座 → ファシリテーション講座 → 企画の立て方講座 → 私の主張大会



5 次回の研修会について

来年度に、2~3回程度の職員向け研修を行う予定です。今回、皆さんに検討いただいた研修プログラムを参考にしながら、来年度行う研修プログラムを組みたいと思います。今後の市民協働実現に向けて、引き続き、ご参加をお願いします。

宿題

「縮充の日本」を読んでおくこと。定住・企画戦略課でも書籍は貸し出し可能。

今後のスケジュール(予定)

